

術後の肺血栓塞栓症発生率

術後に肺血栓塞栓症を発症してしまった患者様の割合を示しています。肺血栓塞栓症はエコノミークラス症候群ともいわれ、血栓が肺の血管に詰まることで呼吸困難や胸痛を引き起こし、死に至ることもある疾患です。寝たきりの方や下肢の手術後に発症することが多く、弾性ストッキングの着用など適切な予防対策が必要となります。

【当院の活動】

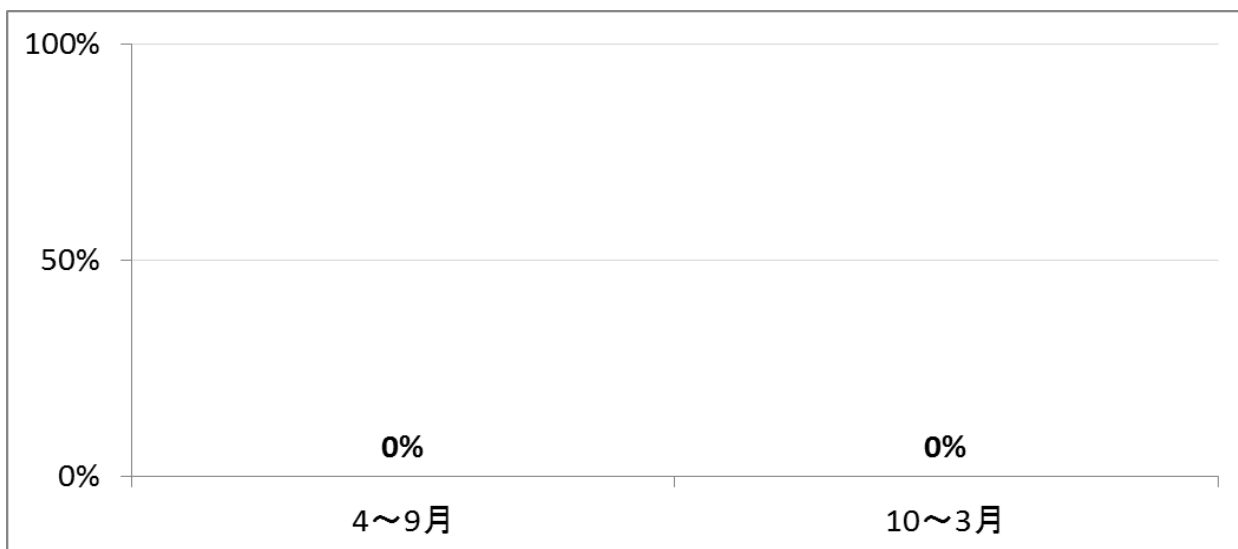
全身麻酔や脊髄くも膜下麻酔で手術を受ける患者様には、弾性ストッキングや血栓予防装置(フットポンプ)を着用し血栓症の予防策を実施しています。手術後も患者様が歩き始めるまでは血栓予防装置を使用して、肺血栓塞栓症を未然に防げるよう取り組んでいます。

対象病棟：一般病棟

計算式：
$$\frac{\text{分子) 術後肺血栓塞栓症の発生件数}}{\text{分母) 全身麻酔かつ肺血栓塞栓症発症のリスクレベルが「中」以上の手術を施行した退院患者数}}$$

対象期間：6ヵ月

データ件数:	2022年度	
	4～9月	10～3月
分子	0	0
分母	133	115
発生率(%)	0%	0%



●年度別比較

データ件数:

	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
分子	0	0	0	0	0	0	0
分母	252	251	280	250	210	255	248
発生率(%)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

